

ラボの世界

THE WORLD OF LABO

TOPIC

ラボ国際交流
再開

P4~6

- 01 10代とともに「自分を信じて夢をつかむ」
- 04 2022 夏の訪問 ラボ国際交流再開！
- 07 ラボ韓国青少年オンライン交流ですっかりなかよし
- 08 第34期ラボ高校留学 Breaking News!!
- 10 新インターン紹介 -Kailee Stinnett, Audrey Johannes-
- 11 Go Ahead! -ことばからひろがる世界-
- 12 東京言語研究所 公開講座報告 -ヒトのことば, AIのことば-



いっしょに暮らした アメリカで

10代とときに

峰 幸代 Mine Yukiyo

福岡県出身。神奈川県に移り、小3のときに少年野球を始め、中学からソフトボールに転向。卒業後は千葉県の強豪校に進学し、インターハイ、国体、全国高校女子ソフトボール選抜大会の3冠を達成。卒業後の2006年にルネサスエレクトロニクス高崎女子ソフトボール部（現ビックカメラ高崎のチーム）に入部。捕手として活躍し、日本女子ソフトボール1部リーグ新人賞、ベストナイン受賞。以降、日本女子ソフトボール1部リーグで2度、全日本総合女子ソフトボール選手権大会で3度優勝。ベストナインを2度受賞。2007年にジュニア日本代表に選出され、世界ジュニア選手権に出場。2008年にはチーム最年少選手として北京オリンピックに出場し、金メダルを獲得。2014年に引退するが2016年に現役復帰。トヨタ自動車レッドテリアーズに加入し、チーム4回の日本一に貢献。2021年東京オリンピックメンバーに選出され、2度目のオリンピックに出場し、ふたたび金メダル。同年に現役を引退。現在はトヨタ自動車に勤務。



小6のときにシドニーオリンピックをテレビで見て、「ソフトボールで金メダルをとりたい」という目標をもち、それから8年後にほんとうにそれを達成された峰さん。夢、目標、努力、感謝、コミュニケーション……インタビューとして集まった若者たちにさまざまなメッセージを伝えてくれました。You can do it! まさにそんなことをホンモノにするヒミツを教えていただきました。

自分を信じて 夢をつかむ

オリンピックは厳しい世界

ソフトボールは基本的に9人でする競技です。東京オリンピックではチームにたった15人しか入れません。2008年の北京オリンピックでは試合に出て活躍することが私の役割でした。そして今回の東京オリンピックでは、オリンピック経験者としてまわりに気配りをし、相手の分析や監督の考えを伝達することも役割でした。試合に出て活躍するのはもちろんですが、出ていなくてもチームのために活躍できることはたくさんあります。

はい、これが私が使用したキャッチャーミットです。（参加者は実物を手にしながら「すごいきれい〜」「やわらかい〜」などと声をあげる）オリンピックの特製モデルです。1年くら



い使いました。手入れをしっかりとっているからきれいでしょう？ ボールが野球より大きいこともあって、キャッチャーは硬式野球のファーストミットを使用します。ボールは黄色です。学校で使うゴムのものとは違って、コルクが入った皮革カバーのもので3号球です（直径10cm弱）。

自分でやると決めたら最後までやらなきゃ

最初の習い事は5歳から。水泳でした。喘息や中耳炎など病気がちだったので身体をじょうぶにするためと、父が水球をやっていたので始めました。習字も小3〜6までですべての段をとりました。これは自慢です。ソフトボールをやってなければ書道家になっていたと思います。

私はとても人見知りで、いつも母の後ろにくっついて、フリフリのスカートをはいてフリフリの靴下をはいて、静かに公園でブランコをしているような子でした。小1の頃、ピアノを習い始めたんですが、人見知りがひどくて先生の家に行くのもイヤ、先生とふたりっきりになるのもイヤで1週間でやめてしまいました。すると父に少年野球チームに連れていかれました。

それで野球を始めたんですが女子はひとり



でしたし、何回かやめたいなと思っていつもやさしい母に「仕方ないね」といってもらえると思って相談したら、「一度自分でやると決めたら最後までやらなきゃ」といわれました。これはいまも私のなかに生きていることばで、そのおかげで小6まで続けられました。

早い時期に野球はおもしろいなと思いました。小4くらいでいろいろできるようになったし、男子にも投げたり打ったりで負けなかったですから。父には「毎日20分以上走れ」「壁にある小さな的に毎日50球は投げろ」などといわれて続けました。おかげでゆるやかではあるけれど向上していきました。

小6で金メダルをとろうと思った

小6のときにシドニーオリンピックをテレビで見ていたら、なんと日本代表のソフトボールチームが銀メダルを獲得しました。感動した私は「日本のソフトボールチームは金メダルを取れる可能性がある」と思いました。

そして中学からソフトボール部に入りました。自分がしたいと思ってチョイスするっていうのがよかったんだと思います。シドニーオリンピックを見なかったらこういうチョイスはしなかった。なにをチョイスして生きていくかはとてもだいじ。自分の心を知って、未来になにが繋がっているかを考えて意識

10代とともに



できることがだいじだと思います。

自分ひとりじゃできない

野球からソフトボールに変わってもあまりとまどいはなかったですが、小学校でワイワイ楽しくやっていたのに中学校になったら上下関係が厳しくて、それはとまどいました。

あと、未経験の子がけっこういてやりずらさはありました。ひとりでがんばってもだめで、みんなで向上していかないといけない……そういう初心者仲間との関係のむずかしさのなかで、自分の考えが正しい、なぜ私みたいにできないの？ と思ってしまいました。なぜもっと理解し、受け止められなかったのか？ といまになって思います。

アメリカ人選手とのコミュニケーション

1回目の金メダルは高校を卒業して3年目でした。でも次のオリンピックではソフトボール競技がなかったので「もう終わった」と思っていました。しかし、28歳くらいのとき、「東京オリンピックでソフトボールが復活する」と聞いて、「もう一度やろう!」と思いました。そしてトヨタ自動車のチームに入り、モニカ・アボットというアメリカ人選手とバッテリーを組みました。

英語と日本語でコミュニケーションをとらなければいけなくて、むずかしい戦略的な話になると、地面に絵をかきながら意思の疎通



をしました。アメリカ人は信頼しないと心を開いてくれない、と思いました。私を信頼してほしい、そうしないといい

プレーは生まれえない……そう思ってモニカと気持ちをたくさん共有しながらいっしょにプレーしました。

試合中のだいじな瞬間や時間がないときは通訳を介して意思疎通しました。いっしょにがんばって日本一になれたことはとてもうれしかったです。モニカも最初は不安がたくさんあったと後で話してくれました。それでもコミュニケーションをとり続けることで徐々に心を開いてくれてよかったです。

東京オリンピックでは日本はアメリカと決勝戦であたりました。モニカがアメリカを代表して投げる姿はカッコよかったです。試合が終わっていっしょに写真をとってたえあいました。すごくうれしかったです。

信頼関係は一瞬では築けない。いっしょに磨きながら築くしかありません。みなさんも、ことばの違い、年齢、性別の壁なんて感じないでほしいと思います。



国際試合で感じたこと

国際ゲームでは異文化を感じました。試合開始も日本みたいに一列にならんでお辞儀なんてしないです。逆に日本人の硬さを感じました。お客さんの応援の仕方も「声を合わせて」でなく体全体で喜んだり、悔しがったりと「応援する気持ち」を伝えることが多いです。どちらのチームの選手でも敵味方関係なく、いいプレーをたたえるんです。

試合が終われば互いにたたえあうのが国際ゲームのよさです。日本人は無表情でお辞儀

しますが、それでは外国人には通じません。イタリア人などは、ジェスチャーで感謝などを伝える。感謝を伝えるのはすごくだいじです。みなさん、家族にも感謝しましょうね。自分に近い存在の人に感謝やゴメンを伝えることもだいじです。それが夢をかなえることにつながるんです。笑顔は世界共通です。

< Q & A >

がんばれる人とがんばれない人の違いは？

自分の未来を信じられるかどうかの違いだと思います。もしかして東京オリンピックの選手に選ばれない？ とか、私なんか……と思ったら終わり。ぜったいに「できる可能性」をみんなもってます。なんでもいいから自信をもつこと。「得意なこと」「やりたい」を継続することがだいじです。

互いの力を生かしあうには？

ソフトボールチームには15人いますが、みんなそれぞれ性格や考え方も違うので、その15人全員を好きかといわれれば、そうではありません。好き嫌いでなく、いいところが見えているかどうか、認めあっているかどうかがいじだと思います。だいじなときにいいプレーをしてくれるなど、チームにプラスになる部分を見ていくことで信頼関係にもつながっていくと思います。好き嫌いで人は測れないです。ポジティブな面を見ていけばチームとして成りたつんです。

うまくいかないときは？

チームとしてうまくいかないときは、すぐに話しあったほうがいいです。問題を把握する、解決方法を話しあう……あとは気にしないことです。次こそはやってやる、というパワーがいじですね。

あとスポーツにはスランプはつきもので

10代とともに

す。たとえばバッティングが不調になる。原因がわからない、いつもと同じようにやっているのになあ……というときがあります。そんなときは、①たくさんバッティング練習をして自信をつける ②バッティングのことを考えないではなれてみる。時間がたってからバットを持ってみる ③まわりの人に自分の状態を聞く。頼ってみる……の3つですね、私の場合は。

努力を続ける方法は？

目標を達成するには時間がかかります。夢を信じて努力を楽しんでください。なかなか結果が出ないのはあたりまえです。たとえば勉強自体を楽しむ、数学のこの問題をとけるようにしよう、などと小さな目標をクリアをしていくことが夢につながります。努力が足りない、続かない、というのは小さな目標を立ってられないということだと思います。

10代の若者へのメッセージを

私は小6のときの夢をかなえ、おとなになって東京オリンピックの夢をかなえました。でも私だからできた、というわけではないです。「私にもできる」と思ってください。自分の未来、可能性を信じてほしいです。みんな種もっています。努力が水やりです。いつ芽が出て、花が咲くか、どんな花が咲くかはわかりません。でも水やりを楽しんで、芽がでた瞬間、花が咲いた瞬間を喜んでほしいです。私も今日、みなさんに水やりをしに会いにきました。まわりの人への感謝をふくめ、あたりまえのことをあたりまえにやってほしいです。まわりの人と協力して目標を達成するだじさを知ってほしいです。今日、

縁あってみなさんに会えたのもうれしいし、みなさんが夢にむかうきっかけになったらうれしいです。

(文責 編集部)



インタビューを終えて

[取材協力] 神奈川県のラボ・パーティ

青池眞由子P、三井麻実P、下田弥生P、飯塚栄子P、
安永陽子P、市川美里P、牧内裕子P、中込陽子P

青池眞由子パーティ

●石井颯真(中2)努力をする意味を知った。目標をだじにした。●橋本空(高1)「努力するためにたいせつなのはそのことを楽しむこと」というのが印象的でした。ぼくは「継続」があまり得意ではないので嫌いなことも楽しめる要素を探していきたいです。小学生のときの夢を達成できる峰さんはすごい。●清岡冬輝(高3)「チームには好きな人も嫌いな人もいます。チームとして動くため、いい部分を見つかるのだと知りました。苦手な人を好きになるというより、リスペクトできるようにしたいです。「目標とモチベーションは関係ない」は驚き。「目標をあきらめない」「自分はできると信じてつける」でまっすぐな生き方ができると感じました。

三井麻実パーティ

●石部俊晴(中2)「努力するたいせつさ」「努力をするうえでたいせつなこと」「努力の持続」のお話が

ありました。自分は「軽くやっけて終わり」という感じでした。それは「具体的な目標」がなかったからとわかりました。これからは「毎日30分勉強する」「毎日ドリブル50回(左右)とシュート10本を打つ」をします。●佐藤悠(高3)高3の自分は進路のこと、ラボ活動のなかでの自分の位置を考えなきゃいけない。今回の話はとても刺激になりました！ソフトボールのバッテリーは互いに信頼するために、ふところまで相手のことを知る。今日からラボで学んだことをもっと枝伸ばして、自分が描く自分の理想になるために日々精を出しまくりたい！

下田弥生パーティ

●有坂日向(中1)オリンピックの選手の話を知った。なんて貴重な体験！自分の考えと峰選手の考えで違うところがあってもいいです。●山村心弥(高2)「自分の思いを信じる」たいせつさ。私には可能性があり、この先の目

標を明確にし、ラボ活動も楽しんでいきたいです。自身の考えをだじにしつつもほかの人の考え方も受け入れたいし、「自分で決めたこと」でつらいこともあると思いますが、やりとげた先に待っていることを考えてやっていきます。

飯塚栄子パーティ

●坪田花音(高2)アメリカの選手とのコミュニケーションについての話が印象的。短時間で正確な指示を出したり、受けとったり、日本語でさえむずかしいのに、峰選手は絵をかいたり、ジェスチャーもつかって信頼関係を築いていったと聞き驚きました。私もいろいろな手段をつかって相手をもっと知って仲を深めていきたいと思いました。

安永陽子パーティ

●川村佳穂(中1)金メダルが思ったより重くてびっくり。峰さんの経験や考えなどいろいろ聞いて楽しかった。やる気が出ないときは未来が見えなくなっているということだと知りました。ぜったいに夢をかなえるという気持ちがあればいい、というのが印象に残りました。

市川美里パーティ

●板垣結斐(中1)「自分を信じる」ことから成長していけたら、スラ

ンプからは1回はなれてみたりするとい、など勉強になりました。また、「勉強する気になれないときは？」という質問には、「努力することを好きになるといい」といわれました。これからのテストなどにむけて生かしていきたいです。

牧内裕子パーティ

●田邊弥寿(高2)努力があまり続かなかったけれど、今日の話はめっちゃ的確だし、心に刺さるものがほんとうにたくさんありました。私にも最近やっと夢ができて、とてもいいタイミングで峰さんの話が聞いて努力しようと強く思わせてくれるようなことばかりで、思わず聞き入りました。ソフトボールもじょうずで話すのもうまいなんてビックリです！人生に光が見えました。

中込陽子パーティ

●中込優月(高2)「自分を信じてやるのがだじ」「努力を楽しまない目標には届かない」「人のポジティブな面をみつける」など、貴重ですてきなことばに感動しました。いまの自分と重なることもありましたが、また、峰選手の夢に対する強い気持ちがたくさん伝わってきました。「夢はかならずかなう」

[取材日] 2022年6月

2022
夏の訪問

PHOTO速報

ラボ国際交流再開!

2022年夏、コロナのために2年連続で中止となっていたラボ国際交流が再開されました! 交流の機会を、挑戦の夏をずっと待ちながらたくさんの準備をしてきた参加者のみなさん。手と心をひろげて迎え入れてくださったホストファミリーのみなさん。やさしさに支えられながら挑戦をし、心ふるえる「ひとりだちへの旅」ができました。オレゴン国際キャンプでは驚きにあふれた自然との出会い、アウトドアとライフスキルの達人のインストラクター、アメリカ人参加者たちとの出会いがありました!! そのようすを写真でお伝えします。

北米 (アメリカ)

日程 7/22~8/19

滞在先 アメリカ21州

参加者 356名

出会いました



あそびました



作りました, 食べました



ふれあいました



寝ました



そして, お別れするとき



オレゴン国際キャンプ

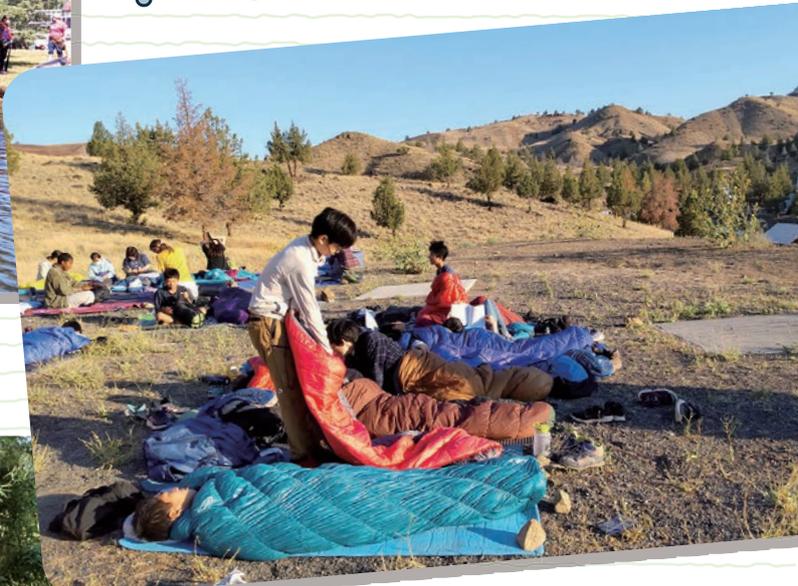
日程 7/24~8/15

滞在先 オレゴン州
カリフォルニア州

参加者 25名

プログラム

- ハイク、動植物観察、カヌー、化石採集、寝袋泊、博物館見学など多彩な自然体験、野外活動プログラム
- オレゴン州と周辺州の中高生と交流できるプログラム
- OMSI (オレゴン科学産業博物館) の専門インストラクターが同行



ラボ韓国青少年 オンライン交流で すっかりなかよし!

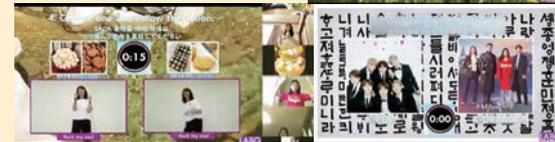
2021年に引き続き、2022年のラボ韓国青少年交流プログラムもオンライン形式で開催し、抽選で全国から15名のラボっ子が参加しました。今年は韓国ラボっ子のペンパル(パディ)とは、どんな交流ができたのでしょうか。

プログラム 7月上旬からメールやSNSでパディと交流した後、8月6日(土)にZoomを利用したオンライン交流会が行なわれました。全体会では英語や韓国語での自己紹介、今年開催された韓国ラボキャンプのようすをビデオで視聴したり、韓国の歌「アリラン」の歴史的背景を知るなど、韓国の文化にもふれました。パディごとに分かれたプログラムでは、韓国ラボっ子はキンパの作り方を、日本のラボっ子はおにぎりの握り方を教え、自宅のようすや家族紹介をして交流しました。



8月6日のオンライン交流会の印象は?

●韓国のラボっ子たちの英語の発音がきれいでびっくりしました。樋田愛依(小4/愛知県・長田容子P) ●韓国語で自己紹介を考えていましたが、いざ自分の番になるとうまくかえなくて悔しいです。パディが日本語がじょうずにビックリしました。よい経験になりました。小山紗季(高1/大阪府・松岡素万子P) ●韓国のラボキャンプが日本のキャンプとは違いおもしろかったです。「アリラン」という曲自体は知っていましたが、地域ごとに違いがあることを知らなかったの、知ることができてよかったです。本多真子(高3/静岡県・狩野和美P)



パディとのメールやSNSをとおして感じたことは?

●外国にともだちができてうれしかった。いつか韓国に行ってパディに会いたいと思った。中野弘鬼(小5/福岡県・河又洋子P) ●はじめて英語で長文をうったのでたいへんだったけど楽しかったです。自分のことをあんなにいろいろ紹介したのははじめてでした。金そら(小5/東京都・金麻衣子P) ●パディの好きな食べ物はトッポギと聞いていたので、私も食べてみたらちょっと辛かったです。佐々木菜帆(小4/秋田県・佐々木宣子P) ●最初は自分のことをやりとりするだけかと思ったけど、写真を送りあうなどして楽しかったです。もっとたくさんやりとりしようと思います。橋本樹(小5/東京都・佐藤公子P) ●韓国語でメールを送ったので、最初は伝わっているか心配だったけど、質問した内容にしっかり答えてくれたので伝わったのだと思い、うれしかったです! 連絡をするごとに早く会いたいという気持ちが高まりました。関香音(中1/千葉県・森富子P)

8月6日のパディごとに分かれたのクッキングプログラムはどうでしたか?

●料理では相手のまねをしてなんとかできておいしかった。ずっとメールのやり取りをしたかったし、対面でいつか会いたいです。岡田華琉(小6/広島県・岡田阿紀P) ●クッキングのキンパは、おにぎりより作るのがたいへんなぶんおいしくて、ものすごい勢いでキンパを食べてしまいました。パディプログラムが楽しくて好きでした。大坪一紗(小5/東京都・金麻衣子P) ●料理はうまく作れました。パディは英語でスラスラ作れましたが、ぼくはあまり英語をしゃべれないので少し長くなりましたが、お母さんたちのアシストを受けてなんとかできました。お母さんとパディのお母さんが仲よくなったのもよかったです。木下準基(小6/大阪府・松岡素万子P)



第34期 ラボ高校留学 Breaking News!!

Precious, Meaningfull, and Full of JOY!

10か月にもおよぶ留学生生活を終えた、第34期ラボ高校留学プログラムの留学生から体験レポートが届きました。どれも留学をしなければ得られなかった貴重な体験談にあふれています。写真とともに楽しみください。



Shuheji Nakajima Alaska, U.S.A. (山梨県・村上美恵子パーティ)

ぼくは、アラスカ州のなかでもいちばん大きな都市であるアンカレッジに10か月ホームステイをしてきました。ホストファミリーはどんなときでもぼくを家族の一員として接してくれました。そんな恵まれた環境での生活は、毎日新しい発見があって、経験したことがないことにもたくさん挑戦しました。

たとえば、ぼくはアラスカで生まれてはじめてエルクやムース（ヘラジカの仲間）を食べたのですが、ほかのどの肉にも似ていない味で、ことばで表わせないほどにおいしかったです。また、いちばん大きな挑戦だったのは、未経験だったクロスカントリースキーに冬の部活動として挑戦したことです。ふだん練習で使っていたトレイルコースには、マウンテンバイクを乗りにも行っていて、ぼくにとってそこはホストファミリーや部活でできた友だちとの思い出の場所です。

この10か月でたくさんの刺激をたくさんの人から受けましたが、印象に残ったのは、人文学の先生でした。

ほかの授業とは違い、資料やスピーチなどを基盤に生徒たち各自がもっている意見を引き出すのがとてもじょうずな先生でした。この先生の授業が毎日楽しみでしたし、この経験はきっとラボ活動でも生かせるものだなと感じました。しかし、当然つらいこともありましたが、そんなときでも、ホストファミリーはいつでもぼくの味方でいてくれました。ぼくはアラスカのこの家族にホームステイできていなかったら、ここまで素晴らしい経験はできていませんでした。もちろんまわりの人も支えてくれましたが、いちばん身近で支えてくれました。それに応えるためにぼくが留学中いちばんたいせつにしていたのは何事も途中でやめないことです。とにかくあきらめずに挑みつづけることが、どんなことにおいても成功に近づくのだと、この留学で学びました。



Yui Fujimoto British Columbia, Canada (香川県・佐々木嘉美パーティ)

私はカナダのブリティッシュ・コロンビア州に1年留学をしていました。ペンティクトンといういなかの町でし



た。家に帰るまでの坂がとくに思い出に残っています。私の家は丘の上であり、その坂の傾斜がきついのですが、ふり返ると、ふたつの湖に挟まれている町が見えてとてもきれいでした。ホストシスターと「疲れた」といいながら、景色を眺めて帰っていたのを思い出します。





次に、北米といえば、行事を盛大に祝うイメージですね。サンクスギビングデー、クリスマス、イースターなど特別な行事がある日は、スタッフドターキーを食べました。そのなかにはパンや野菜などを煮込んだものが入っています。意外な組みあわせですが、それにクランベリーソースをかけて食べるのもおいしかったです。

そして、学校生活では生物の先生が印象的でした。とてもフレンドリーで、友だちみたいな人です。ジョークをいいあったり、休日の話をしていました。その先生がもつクラスのふんいきもよくて、楽しく勉強できました。私のもっとも信頼していた先生です。

留学に行ってよかったと思うのは、いろいろな国の人に出会えて視野がひろがったことと、一生の友だちができたことです。あくまで自分のいる世界は多種多様な環



境のなかのひとつ、たとえそこできなかつたとしてもそれが終わりだとは思いません。私の場合、国立大学に受からなかったらどうしようと考えていた時期がありました。いま、それは自分の人生のなかの選択肢のひとつに過ぎないと考えられるようになり、ストレスなく勉強できています。それから、たとえ母語で話せたとしても、一生つきあっていくと思える友だちは少ないと思います。そんななか、すてきな友だちに出会えたことは自分の財産だと思います。



Ai Matsubara Texas, U.S.A. (福井県・岸本智美パーティ)

いちばん好きになった食べ物は、フォートワースにある「ストックヤード」を訪れたときに食べた牛ステーキです。いままでいちばんおいしかったです。テキサスは、アメリカのなかでも

牛肉生産量がとくに多いです。ストックヤードではロングホーンという牛のパレードがあり、カウボーイが暮らす町並みとともに楽しむことができます。

また、いちばん好きになった場所といえば、学校のカフェテリアです。そこではランチタイムに友だちとおしゃべりをしたり、スクールランチを食べたりしました。私が留学した高校では、驚くことにスクールランチが無料だったので、みんなはスナック菓子や軽食で済ますことが多かったです。日本の給食とは180度違っていました。

いちばん印象的だった人は、友だちのDylanです。彼は黒人で、人種差別的な不平等な扱いに対してプロテスト（抗議運動）を行ないました。ローカルテレビ局も取材に来るほどの騒ぎになり、私はそれがアメリカでは起こりうるということに衝撃を受けました。同時に、正しいと思う答えをもとめつけ、勇気ある行動を成しとげた友だちに、尊敬の念を抱きました。

私は留学中に日本についてのプレゼンテーションを4回しました。英語力の上達だけでなく、人間的な成長につながったと考えています。その経験を通していままでとは違った勇気や感情を知ることができました。

自分は人と関わること、そして文化の違いを知ることが好きだとあらためて気づきました。将来は大学で国際文化比較を学び、それを生かす仕事に就きたいと考えています。

1年留学を考えている人に伝えたいのは「何事も挑戦」ということです。保身的にならず、失敗してももう一度、自分から行動に移すことがたいせつだと思います。ぜひ勇気を出して新しい世界に飛びこんでいてみてください。



新インターン紹介!

この秋、アメリカからやってきた2人のラボ・インターンをご紹介します。

ケイリー



ラボの受入れを4人、日本にホームステイをしました。本と芸術と植物が大好きだそうですよ。剣道を習いたいですって。

Hello!

My name is Kailee Stinnett, I am 20years old. I live in Enterprise, Oregon, known for the Wallowa Whitman National forest. We get a lot of tourists during the summer making my summers very interesting.

I love learning and experiencing new things and have many hobbies. I enjoy literature, art and plants. I draw quite a bit in my free time as well as take care of my numerous plants. While I am in Japan, I will research Japanese Kendo for my study project.

I have hosted four exchange students, and I was hosted by one of my previous exchange students in Japan in 2016, the summer after I had hosted her, at that!

My homestay was in Chiba. It was a wonderful experience and I still have contact with my host family. That was when I learned about the Labo Internship Program. My parents encourage international travel so that we can see what the world looks like outside of the small town that we live in.

I can't wait to be able to learn more about Japanese culture while teaching people about American culture. I'm excited to meet you!

Kailee Stinnett ケイリー・スティネット

配属：10月～1月は東日本 / 2023年3月～8月は九州の予定です。

オードリー



ラボの受入れをし、日本にホームステイし、上智大学に留学しました。「日本語は話せるけど、文法や漢字は教えてね、代わりに英語を教えるね、お互いに間違いを恐れずに話そう」といっていますよ。

Hello!

My name is Audrey, I am 23 years old, and am from a small town in Minnesota in the USA. I studied the Japanese language, international relations, and earned a degree in Political Science at university.

Although I am from rural America, I was 14 years old when I was in the Labo Exchange Program and lived with two Japanese host families during the summer of 2013.

I remained in contact with one family that lived in Tokyo for several years after my homestay and reunited with them during my junior year I spent abroad at Sophia University in Tokyo (2019-2020).

I love speaking Japanese and I want to help you learn English (or Spanish)! I can communicate in Japanese conversationally but need help with grammar, vocabulary, and kanji. Please feel free to correct me. I hope you feel comfortable speaking English around me even if you make mistakes.

I began collecting goshuin during my exchange year in university and love seeing the variations from one place to the next. Please take me to see your local shrine or temple and let me know your favorite goshuin!

I am very excited to meet you and my new Labo Parties.

Audrey Johannes オードリー・ヨハネス

配属：10月～1月は中国・四国 / 2023年3月～8月は東京の予定です。



狩野 萌
大学非常勤講師

ことばからひろがる世界

現在、大学で講師をしながら、子どもの第二言語習得に関わる研究をしています。幼い頃から研究者をめざしていたわけではなく、ラボ国際交流での経験をきっかけに「ことば」に興味をもち、この道を志すようになりました。

私が国際交流に参加したのは中学1年の夏。ホストファミリーは、ノースカロライナ州に住む、6人家族でした。やさしい両親、シャイな兄、思いやりにあふれたホスト、好奇心旺盛な弟、元気いっぱいな妹と過ごした1か月は、ライブラリーのなかでしか知らなかった世界を体験する日々の連続でした。たとえば、食事前のお祈り、日曜日には教会に行くなどの習慣は、『わんぱく大将トム・ソーヤ』や『大草原の小さな家』などでも描写がある「信仰心」について考える機会を与えてくれました。また、ステイ中はホストの友人（ヨーロッパ系やアフリカ系米国人）とも頻りに遊んだのですが、人種の違いを超えて互いを知る過程では、『てぶくろ』で描かれている「多様性」を尊重するたいせつさを強く実感しました。

ホストファミリーとの家での過ごし方も、いまの私に大きな影響を与えたたいせつな思い出です。ホストの家にはテレビやパソコンがなかったので、しぜんと「会話をする」時間を多くもつことができました。日中はホスト、弟、妹と人形やボードゲームで遊び、夜はホストとおしゃべりしながらいっしょに日記を書き、寝る前は物語が吹きこまれたカ

セットテープを聴き、翌朝 Mom にその物語の感想を話す日々。ときにはホストに発音を注意されることもありましたが（とくに、ホストの名前“Elizabeth”の発音はむずかしかった！）、英語をつかってホストファミリーといっしょに「楽しい」時間を過ごすなかで、私は英語という言語に強く惹かれていきました。

帰国後、私のライブラリーへのむきあい方は変わりました。ホストファミリーの母語である英語をたいせつにしよう、そして英語で書かれた物語や詩の背景も学ぼうと思うようになりました。たとえば、CDから流れてくる英語のようなきれいな発音を心がけ、新たに物語やナーサリー・ライムにふれたときは、いつ、だれが、何のためにその物語や詩を書いたのか調べるようになりました。そうした過程で、人が育んできた歴史、文化、価値観といった情報を多くふくむ「ことば」をもっと専門的に勉強しようと思うようになったのです。

その後私は、12か月間のニュージーランド留学を経て、国際色豊かな大学に進学し、大好きなシェイクスピア文学、英文学の変遷を理解する英文学史、英語の歴史を紐解く英語史、人が母語や第二言語を習得するプロセスを解明する言語習得など、「ことば」に関わるコースをたくさん取りました。幼い頃からラボを通してふれてきた物語や英語を、専門的な視点で捉えていくことはとても刺激的で、とくに「シェイクスピア文学をなぜ美しいと感じるのか」

「なぜ英語にはスベルと発音が一致しない単語が多いのか」「外国語の習得がむずかしいのはなぜか」などずっと疑問に思っていたことが氷解していく瞬間の感動はいまでもよく覚えています。そして「言語の習得について知りたい！」という思いが強くなり、大学院へと進みました。

今夏、私は博士号を取得し、研究者としての一歩を踏みだしました。研究では、多くのラボっ子、ご家族、チューターにご協力いただき、ホームステイ前後の英語能力の変化について調査し、環境や年齢が第二言語習得に与える影響について分析しました。その研究結果を海外の学会などで発表するための準備中です。

「ことばがこどもの未来をつくる」——このことばの意味を、おとなになってようやく理解できたように思います。たくさんのすばらしいライブラリー、パーティ活動、そして国際交流を通して、多くのことばと人に出会い、私の世界はひろがり、そのなかで研究者という道を選択し、いまがあります。

世界が大きく変化しているいまの時代だからこそ、ラボっ子のみなさんにもたくさんのことばと人に出会ってほしい。その出会いがきっと、みなさんの世界をひろげ、より豊かな学びへと導き、明るい未来への礎になってくれるはずです。

かの もえ＝大学非常勤講師 博士（学術）
（静岡県・狩野和美パーティ OG）



東京言語研究所 公開講座 7/2 報告



私たちの生活のなかで AI の技術が急速に浸透しつつある。まるで「AI がついにことばを理解できるようになった」といわれるようなこともある。果たしてそうなのだろうか。

現在、私たちの社会で取りざたされている AI は、特化型 AI といい、人間が知能をつかって行なう仕事の一部を肩代わりしている AI のことである。このタイプの AI の多くは、機械学習という技術によって開発されている。機械学習の一種である「教師あり学習」では、まず、1. 機械に「問題」と「答え」のデータを与える。2. そこから機械が「問題の解き方」を導きだす。3. それをつかって、機械に新しい問題を解かせる。たとえば、「円の直径を入れたら、円周の長さを出せるような AI」を作るとする。ふつうのやり方は、「円周＝直径×3.14」という解き方（関数）をプログラムするが、機械学習では、問題と答えを機械にたくさん入力することで、機械が「解き方（関数）」を導きだす。

機械学習のメリットは、人間がデータのなかに潜む法

則性、規則性を発見したり、ことばにしたりする手間が省けることや、データのどこに目をつけたいかを指定する必要がなくなるといったことがあげられる。デメリットとしては、学習させるデータ（問題と答え）に間違いが多かったり、偏ったりしていたら、信頼する結果が得られないことである。AI がデータのどこに目をつけているかが、わからなかったり、AI がしばしば思いがけない間違いをすることもある。

ことばを扱う AI にとって、人間がことばに込めた意図一般を理解するのはむずかしい課題である。私たちはことばを話すときに、単語や文そのものの意味だけでなく、相手がどのような意図でそのことばを発したかまでをくみ取っている。

そもそも人間のことばの仕組みが解明できていない部分も多い。人間のことばについての理解が進まない限り、AI が「人間と同じように」言語を理解・使用しているかを、私たちが判断することはできないのである。

(文責編集部)

川添 愛 (言語学/作家)

2005 年、九州大学大学院にて博士号(文学)取得。2002 年から 2016 年まで、国立情報学研究所研究員、津田塾大学特任准教授、国立情報学研究所特任准教授を歴任。著書に『言語学パーリ・トゥード』(朝日出版社)、『ヒトの言葉 機械の言葉』(角川新書)、『白と黒のどびら』(東京大学出版会)など。



Information

東京言語研究所

■集中講義 対面講義と Zoom によるオンライン講義

言語調査入門:

言語データの作り方から応用の一歩手前まで

日程: 9月10日⑤~11日⑥

講師: 林 徹 (放送大学特任教授/東京大学名誉教授)

■理論言語学講座 (後期) Zoom によるオンライン講義

開講: 10月3日⑦~ 各曜日 10週間 開催

19:00 ~ 20:50

■教師のためのことばセミナー 日曜日午前講座

Zoom によるオンライン講義

日程: 10月16, 30日 11月20日

12月4, 18日

講師:

大津由紀雄 (関西大学)

北野ゆき (守口市立さつき学園)

向後朋美 (十文字学園)

榎木貴之 (北海学園大学)

巨理陽一 (中京大学)

※くわしくは Facebook をご覧ください

Access <http://www.facebook.com/>

LaboJapaneseLanguageInstitute